スマートフォン

恩方囲碁同好会会長　藤森　力

私にとってスマホは今や生活に欠かせないものとなっている。コロナ禍の中、孫たちとのラインを通じての情報交換は楽しい。遠く離れてはいるが今夜の夕飯は何？と聞くと、写真で食卓の動画が返ってくる。学期末の成績はどうだった？と問うと、通信簿の写しが送られてくる、成績が上がったねとご褒美を送ってやると、お礼のスタンプやビデオ通話などが返ってくる。自粛生活の中でも一昔前では考えられなかった他愛もないやり取りで交流は図れる。

30 年ほど前、携帯電話を使用するようになった。現役時代であり、最初は便利だったが会社や得意先からこちらの都合には関係なく連絡が来て困惑したものである。現在は GPS で一日の行動が把握されていると知り空恐ろしい気もするが、時代に対応した行動が不可欠であることは言うまでもない。

８年程前スマホに変えた。使い方が難しくて機能のごく一部しか使いこなせてはいないが、これがまた便利である。特に最近はスマホでラインを楽しんでいる。ラインはメールも電話も無料である。インターネットも音声入力で何でも気軽に調べることができるし、カメラも最近はすごく性能が良くなっている。

恩方同好会では一年ほど前、ラインでグループを立ち上げた、現在会員は 15 名だがこれからさらに増えていくことが期待される。会員に対する伝達もラインを使えば簡単である、同報通信なので瞬時に全会員に伝達することができ相手がメールを読んだことも確認できる。

またオンライン対局後、時間を気にせず局後検討が出来る。写真を投稿すると様々なコミュニケーションが生まれる。巣ごもり状態が続いている今、この仲間達とのスマホを通じての触れ合いは貴重である。

先日、ある友人がスマホに変え、新しいメールアドレスを知らせてきた。今はメールアドレスも以前ほど必要ではなくなっている。SMS やラインで十分事足りるのでそんな話をしたところ、スマホは高齢者には不要だということだがそんなことは決してない。むしろ高齢者こそ必要ではないかと思う。恩方同好会は平均年齢 80 歳を超えているがこの年代がスマホを楽しんでいることは素晴らしいと思う。

未曾有のパンデミック、失われた一年有余は大きな損失だ。囲碁を生涯の友と決めた私残された黄金時代を無為には過ごしたくない。まだ続きそうな自粛生活もスマホや、パソコンでの Zoom 活用で有意義に過せるような積極性を持ち続けたいと思う。　　(2021 年 7 月 1 日)